

平成 29 年度（2017年度） 事業報告書及び決算報告書

平成 29 年 4 月 1 日から
平成 30 年 3 月 31 日まで

一般社団法人 日本聴覚障害者陸上競技協会



**JAPAN SPORT
COUNCIL**
日本スポーツ振興センター
競技力向上事業



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

【 目 次 】

ページ

事業報告書

I 当協会と組織運営について	1
II 平成29年度事業計画で定めた基本方針	2
III 主な事業報告	2

決算報告書	7
-------	---

【財務諸表等】

(1) 貸借対照表
(2) 正味財産増減計算書
(3) 収支計算書 (2ページ)

【添付書類】

監査報告書

一般社団法人日本聴覚障害者陸上競技協会
平成29年度事業報告書
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I 当協会と組織運営について

日本聴覚障害者陸上競技協会は、平成14年4月1日の設立以来、わが国における聴覚障害者陸上競技を総括する団体として、社会的責任を果たすとともに生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツとしての聴覚障害者陸上競技の普及発展、選手強化を目的とした事業を実行してきました。

発展普及事業の1つに全国規模の陸上競技大会の開催があります。日本聴覚障害者陸上競技選手権大会は平成15年度に開催された前身の第1回日本聴覚障害者陸上競技記録会の成功をきっかけに、次年度以降、年に1度のペースで開催され、平成29年度には第14回目を迎えました。開催地は東京から東北、沖縄にまで広がりました。今後も開催地の幅を広げて、聴覚障害者陸上競技の啓発に努めます。また、株式会社ニシ・スポーツの協力を得て、光刺激スタートシステム（以下、スタートランプ）の開発が進み、国内大会での使用が進むように普及活動を推進しています。

選手強化事業においては、平成20年度は第1回世界ろう者陸上競技選手権大会が初めて開催され、トルコ・イズミール市に選手団を派遣しています。この国際大会出場を契機に国内競技力の向上と選手の発掘に益々力を注ぎ、その成果として平成21年度には夏季デフリンピック競技大会への選手派遣人数が当時では最多となりました。男子ハンマー投で金1個、男子やり投と女子マラソンの銀2個、男子マラソンと女子やり投の銅2個で合わせて5個の素晴らしい成績を収めています。このデフリンピックにおける聴覚障害者陸上競技の啓発を通して、当協会に登録する選手の数が徐々に増加し始めました。平成24年度にはカナダ・トロント市で開催された第2回世界ろう者陸上競技選手権大会に参加しました。男子4×400mリレーにおいて3位に輝き、これはトラック競技種目では初となるメダル獲得でした。また、女子100mハードルで銀メダル獲得、女子4×100mリレーで4位入賞し、この大会でトラック競技での女子種目出場は当協会設立以来、初の快挙でした。平成25年度は、この勢いを保ってブルガリア・ソフィア市で開催された第22回夏季デフリンピック競技大会に派遣しています。男女棒高跳、女子100mハードルにおけるメダル獲得は新鋭誕生ともいえる素晴らしいものでした。しかし、一方で前回大会よりも派遣選手数、出場種目数が増えたにも関わらず、メダル獲得数は前回大会と同様の5個に終わり、男女とも、更に一段と世界を視野に入れた努力が必要なことが再認識された年となりました。このデフリンピックで初めて国際舞台を経験した選手たちが今や聴覚障害者陸上競技を引っ張るリーダー的存在に育っています。このように、当協会では、国際大会ごとに選手強化計画を立て、経験を通して心身共に強くなり、次世代につなげてくれる選手を育成することも1つの役割であると考えています。平成27年度には第8回アジア太平洋ろう者競技大会に参加しました。派遣人数は40名とこれまでの最多数で、参加国の中では一番多くのメダルを獲得し、聴覚障害者陸上競技アジア王者としての意地を見せつけた年でした。

平成28年度より一般社団法人に移行してからは、更なる聴覚障害者陸上競技の発展、夏季デフリンピック競技大会をはじめとした聴覚障害スポーツの知名度向上を一層推進していくために、日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）や日本スポーツ振興センター（以下、JSC）、日本障がい者スポーツ協会（以下、JPC）、その他の関係団体との連携強化に力を入れています。企業ともパートナーシップ

協定を結ぶなど、多岐にわたって啓発活動を展開しています。さらに、2020年（平成32年）に日本で開催するオリンピック・パラリンピックの中で実施する予定の啓発運動、そして同年度に開催予定の第4回世界ろう者陸上競技選手権大会などにつながるように、啓発・普及・強化・発掘事業に取り組んでいきます。このような視点に立って、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの後には、多くの聴覚障害者が身近な地域でスポーツができる環境をつくっていくことが、当協会としての役割であると考えています。平成29年度は、このような状況の中で聴覚障害者陸上競技の更なる振興推進のため、基本方針（Ⅱ参照）を定めて、新たな事業をも含めさらに一層充実した事業を策定しました。

以下の通り、本協会の平成29年度事業計画にて定めた基本方針をもとに報告致します。

II 平成29年度事業計画で定めた基本方針

- (1) 障害者スポーツ（聴覚障害者陸上）の地域振興の推進をします。
- (2) デフリンピック大会での競技環境の整備・理解啓発事業を推進します。
- (3) 競技力向上に向けて選手及び役員を支援します。
- (4) 2020デフスポーツデベロップメントプロジェクトの発足
- (5) パートナーシップ協定などに向けて企業・団体等と新たな連携を推進します。
- (6) 協会の運営体制の充実そして組織体制を強化します。

III 主な事業報告

（1）障害者スポーツ（聴覚障害者）の地域振興の推進

平成29年度のスポーツ振興基金助成（大会開催助成）を受け、9月29日、30日に東京都大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場において第14回日本聴覚障害者陸上競技選手権大会を開催しました。協賛していただいた企業はありがたいことに前回大会より8社増加の13社でした。29日は夜に開会式を品川プリンスホテルで開催し、品川副区長の御臨席をはじめ、協賛いただいている企業関係者等多くの来賓の方々にご出席いただき、大規模なものとなりました。この際に、初めてバックパネルを用意して、協賛いただいている企業のPR協力にも努めました。7月に選手団を派遣した第23回夏季デフリンピック競技大会の報告もあわせて行うことで、社会に聴覚障害陸上競技を広く周知することができました。30日の大会当日は、公益財団法人東京陸上競技協会の協力を得て、運営を行いました。ドーピングの啓発にも積極的に取り組み、日本アンチ・ドーピング機構（以下、JADA）より検査員が来られて検体をとりました。今大会は2019年にアルゼンチンで開催予定の第1回ユースデフリンピック競技大会の代表選考を兼ねたため、55名の参加選手のうち、高校生が約8割を占め、今後のユース育成強化につながる大会となりました。さらに、競技力向上事業助成の諸外国チーム招待事業として、平成27年度の第12回大会（群馬県前橋市で開催）以来2大会ぶりに台湾選手団8名（選手7名、コーチングスタッフ1名）を招待し、国内選手の強化だけでなく、国際競技力の向上にも貢献することができました。その成果として大会記録が5つも誕生しています。今後も諸外国チーム招待を取り入れながら、更なる国際競技力向上、国際間の関係強化に貢献していきます。

今大会は、小学生の100mオープンレースとアトラクションレースを初めて企画しました。小学生の100mオープンレースは、参加者を募集するため全国の聾学校へチラシを郵送しましたが、あまり広く

周知がされていないようでもう少し努力をする必要がありました。少ない参加数でも参加してくれた子どもたちは楽しんでいる様子でした。アトラクションレースは、スタートランプの啓発のために、その体験を通して一般の方にも広く周知をしようという目的でした。この企画に第23回夏季デフリンピック競技大会の代表選手との交流の機会も設けて、アトラクションレースで一緒に走ったり、サイン会を行ったりして、子どもたちとのふれあいを増やせるように努めました。このイベント企画は子どもたちやその親に大変好評のようでした。次大会も実施できるように、引き続き企画を検討します。また、今大会の周知のために、HPやFacebookなどのSNSによる広報にも力を入れ、大会前の周知、大会の様子、選手インタビューの動画作成と掲載もまめに行いました。

平成30年度も5月に第15回大会を同会場で開催することが確定しています。参加選手数、観客数、協賛の全ての面において第14回大会を上回ることができるよう、引き続き努力してまいります。

味の素ナショナルトレーニングセンターの利用については、トレーニングセンターと契約を結んでいる日本陸連に相談した結果、事前に利用の申請があれば、合宿などでの利用を認めるという方向で利用許可をいただくことができました。平成30年度は、積極的にトレーニングセンターを利用し、日本陸連やトレーニングセンターの研究員の方々との関係をさらに強固なものにしていきます。

（2）デフリンピック大会での競技環境整備・理解啓発事業の推進

《第23回夏季デフリンピック競技大会報告》

平成29年7月18日～30日にトルコのサムスン市で開催された第23回夏季デフリンピック競技大会に、本協会からは選手団48名（役員12名・選手28名・村外スタッフ8名）を派遣しました。

①大会への目標

前回のブルガリア・ソフィア大会以上の成績

銀メダル2個、銅メダル3個、入賞13個

②結果

・金メダル2個

男子200m 山田真樹

男子4×100mリレー 日本（三枝、山田、設楽、佐々木、※中村）※予選出場

・銀メダル2個

男子400m 山田真樹

男子円盤投 湯上剛輝

・銅メダル2個

男子ハンマー投 石田考正

女子棒高跳 滝澤佳奈子

・入賞20個

以上により、目標を超える成績となりました。前回大会は金メダルの獲得数がゼロだったため、平成29年度は、当協会強化委員会と国際委員会が連携を取り、全体のレベルアップ向上に向けて全体合宿を増やし、さらにはブロック（トラック、フィールド）ごとの強化合宿の定期的開催に

努めました。また、今回は若手選手が多いいため、大会に向けてベテラン選手とコミュニケーションを図る目的で、練習でのアドバイスをするなどの技術指導を行うなど徹底しました。4×100mリレーと4×400mリレーの候補選手による合宿、実践試合も行い、チームワークを築き上げてきました。また、大会当日まで、3名のトレーナーと大会までのケアや現地での緊急対応などの確認と連絡を取り合うことを心掛けてきました。

今回のデフリンピック競技大会期間に使用する選手村が山の中にある大学寮であることが全日本ろうあ連盟スポーツ委員会の視察報告により確認できたため、本協会国際委員会と3名のトレーナーで食中毒、蚊対策など様々な注意事項を確認し合い、自ら守るべき事を選手達に発信・共有し続けました。しかし、食事面において、選手村ではバイキング形式で2日～4日毎に同じ内容の食事を繰り返していたことと、火が完全に通っていない生肉などの食べ物があつたために、お腹を下すなど身体面と精神面にダメージを受けた選手が数名見られました。競技では、トラック競技の時間が夜に予選で、翌日の夕方に決勝を行うという過密スケジュールだったため、選手への負担が大きいことを懸念していました。そこで、これまでの過去大会では前例がなかった村外スタッフをJPC強化費（体制整備事業総合大会支援）より派遣し、選手たちが試合により集中できるように、選手村に滞在している3名のトレーナーと連絡し、食事面を含めて様々なサポート活動を行いました。このように選手村に滞在しているスタッフとトレーナーと村外スタッフの連携が上手くいったことで、選手村に滞在している選手とスタッフがそれぞれ競技や選手のケアに集中することができました。好成績を収めた選手が多かった反面、メダルに届かなかつた選手もいましたが、入賞者数が過去最高であったことは評価できるところだと思います。なかでも、男子4×100mリレーで国際大会初の金メダルを獲得したことは、本協会史上の快挙となりました。

平成30年度も引き続き、国際大会において世間から注目されるような成績を収めなければならないと考えます。選手たちが次の第24回夏季デフリンピック競技大会に向けて良いパフォーマンスを發揮できるような環境整備、そして円滑な運営ができるように整えていきます。また、選手が活躍することで、知名度の向上と2020東京オリンピック・パラリンピックにおいて活躍できる機会の増加につなげるために聴覚障害者陸上競技についての知名度向上・地域の理解促進を図る必要があります。そのために、地域での協働事業も含め、聴覚障害者陸上競技の理解啓発事業をさらに推進します。また、様々な情報を発信するポータルサイト（SNSなど）をはじめ、幅広く情報を提供し、多くの方に聴覚障害者陸上競技の魅力を広めていきます。

（3）競技力の向上

平成29年度に実施した選手強化事業については、表1の通りです。事業の具体的な内容については、別紙の報告書をご参考ください。

聴覚障害者陸上アスリートが第23回夏季デフリンピック競技大会で活躍することで知名度向上に繋がり、更に言えば、2020の東京オリンピック・パラリンピックでデフも活躍できる機会が増えてくることを望んでいます。そのため、選手発掘事業を平成30年度も行うとともに、選手育成・強化にも力を注ぎます。また聴覚障害者陸上の総括団体としての頂上の競技会や強化合宿または練習会等を実施して行きます。また、優秀な指導者を配置できるように関係機関などと連携し、コーチ育成強化事業も実施します。平成29年度の課題として残ったのはコーチの確保及び配置についてです。短期間また

は一時的なコーチではなく、常設専門コーチの確保に努めていかなければならぬと考えております。そのためには、資金集め、もしくはデフ陸上の魅力を更に高めていくことで、トップの方に顧問及びコーチに就任していただくことが重要であると考えています。合宿の都度に特別講師として招いて指導していただいたが、選手の実態に合った指導をしていただくためには、年間契約を結んで長期的に見ていただけるコーチを発掘することが平成30年度の課題になるであろうと考えます。

表1 平成29年度に実施した選手強化事業

事業名	日程	場所
第1回強化合宿	5月4日～6日	熊谷市
第1回フィールド強化合宿	6月10日・11日	国士館大
第1回トラック強化合宿	6月15日～17日	日体大
第1回跳躍強化合宿	7月8日・9日	横国大
第1回ユース強化合宿及び発掘運動事業	8月22日～26日	台湾
第2回フィールド強化合宿	11月4日・5日	鳥取
第2回強化合宿及びユース育成・強化・発掘事業	11月23日～26日	台湾
第3回強化合宿及びユース育成・強化・発掘事業	12月26日～30日	沖縄
第2回跳躍強化合宿	1月27日・28日	摂津市・大体大
第2回ユース強化合宿	2月24日・25日	横浜市・日体大

(4) 2020デフスポーツデベロップメントプロジェクトの発足

2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）開催に向け、多くの競技団体が様々なプログラムを実施し、普及・啓発に向け活動を行っている様子を目にします。しかし、デフスポーツは、オリパラ属さずそうした活動に深く関与する機会がありません。昨年開催された、ろう者のスポーツの祭典デフリンピックも日本での認知度は2%程度と大変低く、オリパラ教育で使用される読本の中にもデフリンピックに触れる記述は少なく、聾学校の生徒ですらデフリンピックのことを深く学ぶ機会がないのが現状です。

こうした様々な課題に対して、デフスポーツ団体が一丸となり、2020年に向けデフスポーツの普及、発展、啓発を目指し立ち上げたのが2020デフスポーツデベロップメントプロジェクトです。多くのデフスポーツ団体のお力を借りし様々なプログラムを立ち上げて2020年オリパラに向けて、デフスポーツを盛り上げていきたいと考えます。今年度は山口県で開催された日本選手権大会にて、聴覚障害者（T-70）のアトラクションレースを実施する予定で進めてまいりましたが、調整期日が足らず今年度は断念する結果となりましたが次年度に向けて改めて調整を進めていくよう日本陸上競技連盟と協議を進めてまいります。また、2020年10月開催予定の調整を進めています、第4回世界ろう者陸上競技選手権大会を競技方法、参加国、参加地域等を変更し「2020 World Deaf Games DECANATION for the deaf」という名称に変えて実施することで関係機関と話を進めています。この大会は、国別、地域別対抗で男女各10種目に一人ずつ計10人が1つのチームとなって競技を行う形式となっています。この形式だと、参加国や大会期日が抑えられ、予算面や施設借用面でも開催し

やすいのが特徴です。大会には日本のユース選手の部や聾学校の商学部を対象としたアトラクションレースなども企画していますので、多くの人が参加でき、それに関わる方々が観戦しやすいように工夫をしていく予定です。また、デフスポーツ連絡協議会を通じて、多くのデフスポーツ団体に大会運営に携わってもらい、組織員会には各団体代表が入れるように要請をしていて、デフスポーツ全体でこの大会を成功に導けるように進めています。

(5) 企業・団体等と障害者スポーツとの新たな連携への支援

助成金を東京2020オリンピック・パラリンピックに実施するデフスポーツデベロッププロジェクトの事業として第24回夏季デフリンピック競技大会及び第4回世界ろう者陸上競技選手権大会への関心が高まりつつある中で、関係機関・企業・団体等からの障害者スポーツへの支援や連携について相談に応じるとともに、情報の提供、企画提案、実施支援を行い、デフスポーツの振興を推進します。

平成29年度後半より、主に平成29年9月に行われた「第14回日本聴覚障害者陸上競技選手権大会」から新たな企業スポンサーを発掘する試みを行いました。おかげで12の企業・団体から協賛を得ることができました。その後の各企業の働き掛けを行い、平成30年度から協会ウエアを変更し、株式会社ミズノから協賛を受けることができるようになりました。引き続き、株式会社B&D、ニシ・スポーツの協賛を受ける形を継続し、平成29年度以上のパートナーシップ関係を構築することで、平成30年の協賛を継続していただけるよう契約を結びました。他に、クレディセゾンからも平成30年4月より、協賛を受けることで、最近ではあるが、話がまとまりました。

今後のデフスポーツ発展の為には企業との関係をより強固にし、お互いのメリットになるよう協会としても努力が必要です。平成30年度以降も引き続き、協賛企業の募集を行い、JDAAがさらに盛り上がる様に事業展開を行っていきます。

(6) 協会の執行体制の強化

平成29年度はデフリンピックシーズンであったため、合宿などの強化事業の規模が拡大する中で、確実に事業を推進していくために、執行機関としての組織、人員配置及び事務所などの運営体制を適切に整備し、協会事務局の体制強化に努めました。具体的には、強化、総務、財務、国際、普及育成の人員配置の工夫をし、それぞれの委員会において理事が監督することで運営がスムーズに行えるようにしました。特に強化委員会においては、部長、副部長を各部門（短距離、中・長距離、跳躍、投擲、マラソン）の選手から選出し、本協会との窓口的な役割を設置することで連絡強化を行いました。それによって、選手と本協会間の連絡については、夏季デフリンピック競技大会に向けて問題なくスムーズにいきました。しかし、それぞれの委員会間の業務に大きな差があったことで2つの委員会の仕事を兼ねるスタッフが数名いました。特に財務委員会と強化委員会においては、JPCとの連絡、事業報告などの提出物作成の業務が山ほどあったため、時に一人に偏って負担が大きいところも見られました。平成30年度では、それぞれの委員会の業務内容を割り切ったうえで、それぞれに合った人員配置の見直しを行う必要があると考えます。

平成29年度
決 算 報 告 書

第 2 期

自 平成29年 4月 1日
至 平成30年 3月 31日

一般社団法人 日本聴覚障害者陸上競技協会
神奈川県横浜市西区岡野一丁目20番地22
エルクラス204号

貸 借 対 照 表
平成30年 3月31日現在

科目	当年度	前年度	(単位:円)
I.資産の部			
1 流動資産			
現金	0	28,155	△ 28,155
普通預金	4,184,739	3,782,614	402,125
未収入金	5,577,420	6,230,924	△ 653,504
流動資産合計	9,762,159	10,041,693	△ 279,534
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
付属設備	0	0	0
車輌運搬具	0	0	0
工具器具備品	352,982	467,461	△ 114,479
敷金	0	0	0
差入保証金	0	0	0
その他固定資産合計	352,982	467,461	△ 114,479
固定資産合計	352,982	467,461	△ 114,479
資産合計	10,115,141	10,509,154	△ 394,013
II.負債の部			
(1) 流動負債			
短期借入金	6,300,000	2,600,000	3,700,000
未払金	724,871	3,145,342	△ 2,420,471
預り金	304,510	9,800	294,710
任意団体より預り金	0	5,285,272	△ 5,285,272
流動負債合計	7,329,381	11,040,414	△ 3,711,033
(2) 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	7,329,381	11,040,414	△ 3,711,033
III.正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	2,785,760	△ 531,260	3,317,020
負債及び正味財産の合計	10,115,141	10,509,154	△ 394,013

正味財産増減計算書

自:平成29年 4月 1日
至:平成30年 3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減額
I .一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	[0] [[0] [0] [
② 特定資産運用益	[0] [[0] [0] [
③ 受取登録料	[495,000] [[698,400] [△ 203,400] [
個人登録料収入	429,000	682,400	△ 253,400
法人登録料収入	48,000	13,000	35,000
賛助金収入	18,000	3,000	15,000
④ 事業収益	[3,645,238] [[5,897,409] [△ 2,252,171] [
参加料収入	2,108,412	4,017,600	△ 1,909,188
事務手数料収入	1,317,826	1,879,809	△ 561,983
協賛金収入	219,000	0	219,000
その他の収入	0	0	0
⑤ 助成金等収入	[27,734,000] [[22,700,000] [5,034,000] [
⑥ 受取負担金	[870,444] [[300,000] [570,444] [
⑦ 受取寄付金	[10,000] [[35,000] [△ 25,000] [
⑧ 雑収益	[6,629,081] [[569,887] [6,059,194] [
雑収入	1,343,809	569,887	773,922
旧団体より繰越金	5,285,272	0	5,285,272
経常収益計	39,383,763	30,200,696	9,183,067
(2) 経常費用			
① 事業費			
諸謝金	[34,636,245] [[27,981,744] [6,654,501] [
旅費	5,937,904	1,093,600	4,844,304
渡航費	7,481,404	2,729,229	4,752,175
滞在費	4,423,000	9,754,945	△ 5,331,945
借料及び損料	2,162,710	4,646,825	△ 2,484,115
消耗品費	2,039,141	351,558	1,687,583
スホ一ツ用具費	192,062	326,946	△ 134,884
備品費	3,983,064	2,956,951	1,026,113
印刷費	350,189	42,027	308,162
通信費	573,250	1,166,740	△ 593,490
委託運搬費	82,643	184,452	△ 101,809
賃金	782,785	648,000	134,785
雜役務費	2,200,000	225,000	1,975,000
補助金	2,891,841	1,233,935	1,657,906
会議費	870,444	300,000	570,444
保險料	7,285	0	0
雜費	210,719	473,371	△ 262,652
役務費	447,804	1,848,165	△ 1,400,361
② 管理費	[1,430,498] [[2,150,212] [△ 719,714] [
給料費	0	0	0
通信運搬費	5,483	0	0
消耗品費	169,500	123,136	46,364
借料及び損料	53,136	0	0
新聞図書費	0	3,780	△ 3,780
減価償却費	114,479	104,939	9,540
雜役務費	1,086,604	0	0
地代家賃費	0	1,800,000	△ 1,800,000
雜費	1,296	118,357	△ 117,061
経常費用計	36,066,743	30,131,956	5,934,787
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
雜損失	0	600,000	△ 600,000
経常外費用計	0	600,000	△ 600,000
当期経常外増減額	0	△ 600,000	600,000
税引前当期一般正味財産増減額	3,317,020	△ 531,260	3,848,280
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,317,020	△ 531,260	3,848,280
一般正味財産期首残高	△ 531,260	0	△ 531,260
一般正味財産期末残高	2,785,760	△ 531,260	3,317,020
II . 正味財産期末残高	2,785,760	△ 531,260	3,317,020

収支計算書(正味財産増減計算書方式)

自:平成29年 4月 1日

至:平成30年 3月31日

(単位:円)

科目	当年度決算	当年度予算	増減額
I.一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	[0]	[0]	[0]
② 特定資産運用益	[0]	[0]	[0]
③ 受取登録料	[495,000]	[720,000]	[△ 225,000]
個人登録料収入	429,000	720,000	△ 291,000
法人登録料収入	48,000	0	48,000
賛助金収入	18,000	0	18,000
④ 事業収益	[3,645,238]	[23,240,000]	[△ 19,594,762]
参加料収入	2,108,412	21,850,000	△ 19,741,588
事務手数料収入	1,317,826	1,390,000	△ 72,174
協賛金収入	219,000	0	219,000
その他の収入	0	0	0
⑤ 助成金等収入	[27,734,000]	[24,000,000]	[3,734,000]
⑥ 受取負担金	[870,444]	[0]	[870,444]
⑦ 受取寄付金	[10,000]	[2,500,000]	[△ 2,490,000]
⑧ 雑収益	[6,629,081]	[40,000]	[6,589,081]
雑収入	1,343,809	40,000	1,303,809
旧団体より繰越金	5,285,272	0	5,285,272
経常収益計	39,383,763	50,500,000	△ 11,116,237
(2) 経常費用			
① 事業費			
諸謝金	[34,636,245]	[46,538,000]	[△ 11,901,755]
旅費	5,937,904	0	5,937,904
渡航費	7,481,404	2,100,000	5,381,404
滞在費	4,423,000	0	4,423,000
借料及び損料	2,162,710	0	2,162,710
消耗品費	2,039,141	540,000	1,499,141
消耗品費	192,062	0	192,062
備品費	3,983,064	0	3,983,064
印刷製本費	350,189	0	350,189
通信運搬費	573,250	0	573,250
委託費	82,643	0	82,643
テ、フリンヒック参加費	782,785	4,248,000	△ 3,465,215
雜役務費	2,200,000	0	2,200,000
補助金費	0	23,650,000	△ 23,650,000
会議費	2,891,841	0	2,891,841
保険料費	870,444	16,000,000	△ 15,129,556
雜費	7,285		
地代家賃	210,719	0	210,719
雜費	447,804	0	447,804
管理費	[1,430,498]	[1,167,200]	[263,298]
雜給	0	0	0
通信運搬費	5,483	0	
消耗品費	169,500	200,000	△ 30,500
借料及び損料	53,136	0	
新聞図書費	0	0	0
減価償却費	114,479	0	114,479
雜役務費	1,086,604	0	
地代家賃	0	840,000	△ 840,000
雜費	1,296	127,200	△ 125,904
経常費用計	36,066,743	47,705,200	△ 11,638,457
当期経常増減額	3,317,020	2,794,800	522,220
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
雜損失	0	0	0

一般社団法人
日本聴覚障害者陸上競技協会

経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	3,317,020	2,794,800	522,220
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,317,020	2,794,800	522,220
一般正味財産期首残高	△ 531,260	△ 531,260	0
一般正味財産期末残高	2,785,760	2,263,540	522,220
II. 正味財産期末残高	2,785,760	2,263,540	522,220

監査報告書

平成 30 年 6 月 29 日

一般社団法人

日本聴覚障害者陸上競技協会

代表理事 下防 健太郎 殿

一般社団法人

日本聴覚障害者陸上競技協会

監事 半田 博久



私は、本協会の平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上のことに基づき、当該年度に係る事業報告及びその付属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）及びこれらの付属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

①事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、当該法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算書類等の監査結果

計算書類及びその付属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上